

薬物療法室で治療を受けられる患者さんへ

東京歯科大学市川総合病院

薬物療法室



1. 治療当日の流れ

① 受付

自動再来受付機で受付をします。



② 治療前検査（採血・採尿・レントゲン等）

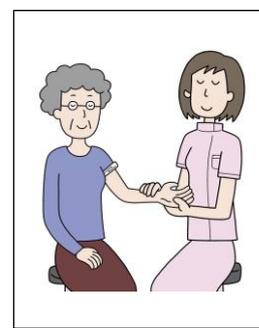
1F 採血室・放射線科にて検査を行います。

検査結果が出るまで 1 時間前後かかります。**診察予約時間の約 1 時間前**を目安に採血をお済ませください。

③ 問診

検査が終わりましたら、各診療科の看護師が問診を行います。

問診票の準備をお願いします。



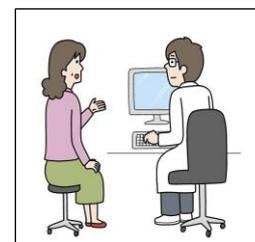
④ 診察

医師が診察を行います。

その日の体調や検査データに問題がなければ薬剤部で薬の準備が始まります。

治療開始には 1～2 時間程度時間がかかります。

体調や検査データが思わしくない場合は延期や中止になることもあります。



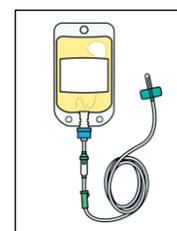
⑤ 投薬

医師の診察後は、問診票が入ったファイルを薬物療法室の受付に提出してください。その後、薬物療法室へ入室しスタッフステーションカウンターで再度ファイルを提出していただきます。席の空き状況により、席へご案内できる場合と待合室で待機していただく場合があります。待機していただく場合には、席の準備が整い次第、患者受付番号でお呼び出しさせていただきます。

治療開始前にお手洗いなどを済ませてお待ちください。

- 点滴の針の挿入は看護師が入室後に行います。皮下埋め込み式ポート挿入中の方は、各診療科で医師が針の挿入を行います。
- 点滴開始前に、調製された薬とお名前に間違いがないか看護師と確認させていただきますので、ご協力をお願いします。

- 点滴の時間はおよそ **時間** **分**です。
- 点滴開始後より、体調がおかしいと感じたらすぐにナースコールでお知らせください。
- 治療終了後、血圧を測定し体調に異常がないことを確認します。



点滴の針を抜いた部位を 5 分程度圧迫してください。止血ができているか確認後、絆創膏を貼り帰宅となります。帰宅後は絆創膏を剥がしてください。

⑥ 会計

点滴終了後は、各診療科窓口へお声かけください。
 精算は、総合案内 1F の自動精算機でお済ませください。



前日採血のご案内

前日採血とは、治療当日の採血は結果が出るまでに 1 時間以上お待ちいただくことになるため、前日に来院していただき採血を済ませておくことです。
 ご希望の方は主治医にご相談ください。

治療当日の検査・持ち物

月 日 曜日 時 分

- 治療前検査【 】
- ・ がん薬物療法同意書 ・ 外来がん薬物療法問診票
 - ・ 飲み物/軽食（匂いの少ないもの） ・ 服用中のお薬
 - ・ 薬物療法前のお薬【 】

*** 服装は自由ですが、点滴を行うので袖にゆとりがある服装でお願いします。**

2. 注意事項

治療にかかわらず生活の質を維持するためにも、以下のような点を心がけましょう。

- 規則正しい生活を送る。
- バランスのよい食生活を心掛ける。
- 適度な運動を心掛ける。
- 禁酒する。
- 禁煙する。
- 手洗い・うがいをしっかり行い感染予防に努める。

2-1 治療前

以下の内容に該当する場合は、必ず医療者にお伝えください。

- 以前に内服薬や注射薬の治療を受けて、発疹やかゆみなどが出たことがある。
- 現在、使用している薬（市販薬も含む）（飲み薬、貼り薬、坐薬など）がある。
- 現在、使用している健康食品・サプリメントがある。

2-2 治療中

以下の症状がある場合は、**我慢せず、すぐ医療者にお伝えください。**

- 点滴の針が入っているところが**痛い・腫れている・赤くなっている**。
※点滴が漏れないように十分注意していますが、患者さんのご協力が必要です。
治療中はなるべく腕を安静にしてください。
- **体調の変化**（気分不快・寒気・呼吸困難・かゆみ・吐き気など）がある。

2-3 治療後

- 日常生活上の制限は特にありません。入浴もできます。
- 内服薬は医師の指示に従って飲んでください。
- 点滴の針を抜いた時は問題がなかったとしても、後になって痛みや腫れなどが生じることがあります。そのため、数日間に変化がないか観察してください。



2-4 治療期間中に気をつけること

- 他の医療機関を受診する場合には、がん薬物療法（抗がん薬治療）をしていることを伝えてください。
- 以前に処方された薬は自己判断で内服せず、医療者に確認してから内服するようにしてください。

- 治療中に予防接種（ワクチン）を受ける場合は、必ず主治医にご相談ください。
- 薬剤の種類によっては眠くなる作用があります。運転に関しては主治医にご相談ください。

3. こんなときどうする

- * 38.0℃以上の発熱が続く
- * 体に発疹やかゆみがある
- * 食事・水分が取れない
- * 口内炎の痛みで食事が食べられない
- * 点滴をした部位の腫れや痛みがある

ご自身やご家族で治療後の副作用や体調に注意し、上記の症状以外でも体調がおかしいと感じたら**すぐに病院に連絡**してください。

➡電話がつながったら次の内容をお伝えください。

- * お名前
- * 診察券の番号
- * 免疫チェックポイント阻害薬治療中もしくは治療を受けたことがあるかどうか。
「〇〇科の〇〇先生にかかりつけ、〇月〇日から抗がん薬の治療中です」と伝えていただくとスムーズにお話ができます。
- * いつからどのような症状があるか。
(発熱、食事が摂取できない、下痢が続いている、息苦しいなど)

連絡先：TEL 047-322-0151（代表）

平日 8：30～17：00・土曜日 8：30～12：30（第2土曜日除く）

※各診療科へご連絡ください

上記以外の時間帯・夜間・第2土曜日・日曜日・祝日

※救急外来につながります

4. 抗がん薬治療中・後の安全対策

抗がん薬治療中も、食事や入浴、運動などは、通常通りに行っても問題はありません。ただし、抗がん薬が皮膚や粘膜に触れることで、正常細胞に悪影響が出る可能性があると言われています。特に投与から 48 時間以内の排泄物の処理に注意することが推奨されています。

4-1 抗がん薬の取り扱い

- 患者や介護者以外、手の届かない所に保管しましょう。
- 抗がん薬の取り扱い前後は石鹸を使って手を洗いましょう。
- お薬（錠剤）は基本的に患者が取り扱いをします。介護者が抗がん薬を取り扱う時は、手袋を装着するなど素手で触らないようにしましょう。



4-2 トイレ

- 排泄物が周囲に飛び散らないように気をつけましょう。
- 男性も便座に座って排尿しましょう。
- 蓋があれば便器の蓋を閉めて流しましょう。
- 水量や水圧が不十分な場合は、2回流しましょう。
- ストーマの装具の貼りかえは、抗がん薬投与予定日の前日または当日治療前に行いましょう。



4-3 洗濯

- 通常、他の衣類やタオルなどと一緒に洗濯してかまいません。ただし、治療後 48 時間以内に吐物・大量の汗・尿・便が付着したものは、他のものと別に洗濯して汚れを落としてから家族のものと一緒に洗濯しましょう。



5. 医療費について

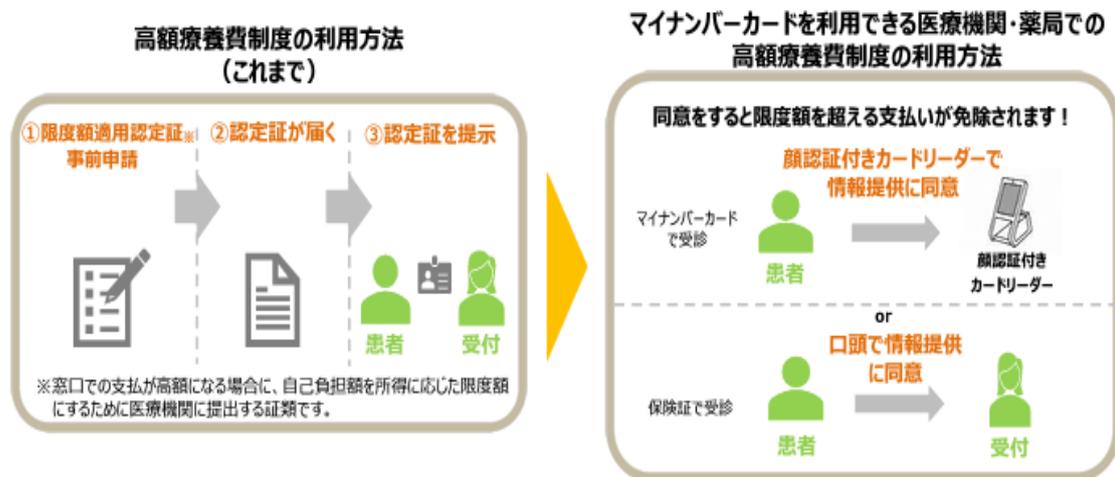
がん薬物療法はとてもお金がかかるのではないかと、治療が長期になった場合に、経済的に心配があるという方は少なくありません。経済的負担を軽減する制度として、医療費控除や傷病手当金などがありますので、医療費について心配がある方は患者支援センターにご相談ください。契約している民間保険があれば、保険内容を確認し、不明な点は保険会社の窓口にお問い合わせください。

- 限度額認定証（限度額適用・標準負担額減額認定証）
 - ・高額な医療費がかかる場合、事前に申請して交付された「限度額適用認定証（限度額適用・標準負担額減額認定証）」を医療機関の窓口に表示することで、同一医療機関・同一月の医療費が自己負担限度額までの支払いで抑えられます。
 - ・保険証に記載のある保険者^{※1}に申請書を提出すると交付されます。

※1 各市区町村窓口、全国健康保険協会都道府県支部、健康保険組合など

- マイナンバーカード保険証

上記以外に、マイナンバーカード保険証をご利用の方は、マイナンバーカードをカードリーダーで読み取る際に、限度額適応認定証情報のオンライン取得に同意いただくと保険者に申請する必要がなくなります。



厚生労働省 HP より

2023.7 作成